

9月30日

司教教会博士ジェローム

Hieronymus

(347~420)

～ラテン語に聖書を翻訳～



「ヒエロニムス」

ドメニコ・ギルランダイオ

(オーニッサンティ教会壁画)

人名辞典などではヒエロニムスと書かれている。

現在のクロアチア共和国にあるダルマチアのストリドで、キリスト教徒のもとに生まれた彼は、ローマで文法学や修辭学を学び、洗礼を受ける。その中でキリスト教文学と修道生活に興味を示し、またエジプトの聖パウロとシリアの聖マルコ、そして聖ヒラリオン of の伝説を書く。

ジェロームは生涯にわたって、アンティオキア、ローマ、コンスタンティノポリス、エルサレムを巡回し活動をするのだが、ガリア(現在のフランス)に向かう途中、修道士になる決心をし、そのままアキレイア、アンティオキアに滞在する。

その後、33歳の時に東シリアのカルキスの荒野で禁欲生活を送るのだが、厳しい苦行と強い誘惑に耐えながらも、時折天国にいるような感覚をもったと本人は言っている。また、そこからかつて共に娯楽に興じた友人に「キリストの兵士よ、なぜまだ家に残っているのですか」と手紙をしたためる。

しかし彼はこの生活は自分にはふさわしくないと悟り、コンスタンティノポリスにおいて、ナジアンソスのグレゴリオスと共に学ぶ。彼は他にもニュッサスのグレゴリオスやイコンニウスのアンフィロキウス

らとも親交を持っていたと伝えられる。

さらに彼はローマに移り、教皇ダマススに仕え、ローマの金持ちや貴族の婦人たちの霊的指導者として禁欲主義を訴える。彼女たちには居眠りをする時にも、あなたの顔は聖書の上に置きなさい、とまで指導していく。後にこのグループから、七人の聖女が生まれる。

ジェロームが教皇に仕えている間に教皇に勧められ、聖書をラテン語に翻訳したが、それはウルガータ聖書として今日でもカトリック教会で用いられている。また、教皇の死後はベツレヘムで男子修道院を統轄し、著作活動に励みながら、アリウス主義やペラギウス主義、オリゲネス主義と戦っていく。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、司教教会博士ジェロームの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン